



大妻多摩中学校

二〇二二（令和4）年度

## 入学試験問題（第二回）

### 【国語】

時間 50分

2月2日（水）

#### 【注意事項】

- 1 問題は18ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

東京でミャンマー料理の店を開いているタンスエさんは、かつてミャンマーを逃れて難民として日本にやってきました。

タンスエさんが日本に来たのは、1989年の12月でした。東京の街は、一年中あたたかなミャンマーでは経験したこともないような寒さで、肌がぴりぴりと痛むほど空気が冷たく感じられました。最初の何日かはホテルですごしていましたが、すぐに貯金は尽きてしまい、外で寝泊まりせざるをえなくなりました。寒空の下、夜は公園のベンチでふるえながらすごし、朝になるとデパートなどのビルの中に入って、冷えきった体をあたためました。

そろそろ正月を迎えようとしているころ、タンスエさんは建設現場のアルバイトを募集していることを知りました。できることなら何でもやろうと、高田馬場駅近くで朝5時、仕事を求める人びとの列に並びました。

「たまたま最初に働いた会社の社長さんが、英語が少しできる人だったんです。働いて二週間もたつと仲よくなり、『これからもいっしょに働かないか』と声をかけてもらいました」

ミャンマーでは大学の先生をしていたタンスエさんにとっては、建設現場での作業は初めてのことばかりでした。言葉がうまく通じない日本の人たちに囲まれ、危険をともなう作業をこなしていくのは大変なことです。それでも働きつづけなければならなかったのは、自分自身のためだけではありませんでした。

タンスエさんはミャンマーから隣国タイに逃れる1か月前に、大学で知り合ったタンタンジンさん<sup>りんとく</sup>と結婚していたのです。

タンスエさんは「<sup>①</sup>どうか自分の後についてきてほしい」という言葉をタンタンジンさんに残して、ミャンマーを出ていきました。けれども、パスポートを持っていなかったタンタンジンさんは、どうしていいのかわからず、<sup>とほろ</sup>途方に暮れてしまいました。このときタンスエさんが勤めていた会社の社長が、日本へ渡る手続きなどを助けてくれなければ、タンタンジンさんはふたたびタンスエさんと暮らすことはできなかつたかもしれませぬ。

みなさんは「難民条約」を知っていますか？ この条約を結んだ国には、さまざまな理由から命が危険にさらされた人びとが逃れてきたとき、その人たちを守る責任があります。日本は、1981年に、この条約に加わりました。② 日本には、「難民」を受け入れ、守る責任があります。③

たのです。インターネットが自由に使える時代ではなかったので、必要な情報を手に入れるのは、今よりもっと難しかったです。たとえば「自分たちは難民として守ってもらえるらしい」など、わずかな情報を得られたとしても、日本語もわからず、法律の知識もないため、どこに行ってもどんな手続きをすればいいのか、そのためにどんな書類をそろえたらいいのかがわからないのです。

④ 注 入国管理局には何度も通いました。担当者たちは、ミャンマーで何が起きているのかを知らなかったでしょう。難民として認めてもらうための面談のたびに、『働きたいから来てるんじゃないの？』と疑われ、厳しく質問されたのです」

何度説明しても理解してもらえず、一時はあきらめそうになっていたタンスエさんでしたが、それでも根気強く面談を続けてきたのは、日本で生まれた娘さんを思っていたことでした。日本に滞在できることが認められなければ、明日にでもミャンマーへと送りかえされてしまうかもしれません。そんな不安定な状態では、娘さんを保育園へあずけることも簡単ではありません。子どものこれらのことを考えれば、「あなたは『難民』として日本で暮らしている」と法律でも認められることが必要でした。

⑤ タンスエさん一家が「スイウミャンマー」をオープンしたのは、2012年のことです。⑤ ミャンマーでは2010年に、20年ぶ

りの選挙が行われ、人びとが自ら選んだ政府が政治を行えるようになりました。そんなミャンマーのようすを見て、タンスエさんの心には「ようやく故郷へと帰れる」と希望がわきあがりました。ところが、東京にあるミャンマー大使館に何度通っても、タンスエさんがパスポートを作ることは認められませんでした。はつきりとした理由は告げられませんが、ミャンマーでは選挙の後もまだ、軍の力が強く政府に影響していたからでしょう。「ようやくミャンマーでの生活に戻れると思ったのに、これからの日本の生活をどうしていこう……」と困りはてていたときに、料理じょうずだったタンタンジンさんの腕をいかしてお店を開くことになったのです。

店内の壁には、軽食からご飯、麺料理まで80種類以上のメニューが写真つきでびっしりと貼られています。

「でもね、これは日本でも手に入る食材だけで作れるメニューなんです。ミャンマーで使っていた食材が全部そろえば、もつとたくさんのお料理をお客さんに楽しんでもらえると思うんです」

お店のようすを誇らしげに語りながらも、故郷に思いをはせるタンスエさんの目は、ときおり 遠くを見つめます。<sup>⑥</sup>

30年の間、「すぐにでも帰りたい」という思いは、いつもタンスエさんの心のなかにありました。タンスエさんが日本に来てからというものの、ミャンマーに残った父親は軍隊によって何度も連行され、「息子はどこにいるんだ！」と厳しく責められました。日ごとに弱っていった父は、再会できないまま亡くなってしまいました。高齢になった母のことも心配でたまりません。

けれどもタンスエさんの二人の子どもたちは、日本で生まれ、日本の社会しか知らずに育ってきました。娘さんは21歳、息子さんが14歳、どちらも日本の学校に通い、友だちは日本人ばかりです。ミャンマー語は家でしか使いません。

「パスポートを手に入れることができれば、念願の故郷での暮らしに戻れるかもしれません。けれどもそれは、子どもたちが望んでいることではないかもしれないです……」<sup>⑦</sup>

日本での生活があまりに長くなってしまったからこそ、「帰りたい」という自分の願いと、子どもたちへの思いの間で、心はゆれ動きません。

日本が「難民条約」に加わってから40年近くがたとうとしています。けれども、タンスエさんが日本に来たところくらべても、難民の人びとが置かれた状況が大きくよくなったとはいえません。<sup>⑧</sup> 2018年、「難民として認めてほしい」と申請した人の数は

10493人、同じ年に難民として認められた人はわずか42人です。2018年に難民として認められた人のなかには、日本に来てから10年間待ちつづけていたという人もいました。人数はもちろん、必要な人に必要な情報をどう届けていくのか、生活をどう支えていくのか、どれくらいの人びとに仕事をするのを認めるのか、と問題は山積みです。

タンスエさんはこれまでの生活をふり返りながら、こう語ってくれました。

「自由であることがどれほど大切か、少しでも想像してほしいのです。生まれた場所を理由もなく離れたがる人はいません。誰も難

民になることなんて望んでいません。そんな人びとがたとえどこに逃れたとしても人間らしくいられる場所を、そして制度を作ってほしいんです」

お店の名前「スイウミャンマー」の「スイウ」は、「家族」「友だち」という意味の言葉なのだそうです。その名前のとおり、このお店は、わいわいと友だち連れでやってくる人から、仕事帰りにふらりと一人で気軽にたちよる人まで、訪れる人たちをあたたかく迎え入れてくれます。「このお茶の葉サラダが食べたい」と、私もいつしかお店の常連客になりました。料理はもちろん、タンズエさん、タンタンジンさんの笑顔を見に、扉を開けて「ただいま」と二人に声をかけたくなる場所なのです。その二人が、故郷で「ただいま」と言える日が訪れることを願いながら。

やすだ なつき  
(安田菜津紀『故郷の味は海をこえて』(ポプラ社)より)

注 入国管理局——2019年4月より「出入国在留管理庁」となった。

問1 ——線部①「どうか自分の後についてきてほしい」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 何があっても、自分の愛する人にはいつでもそばにいてほしいということ。

イ 危険なので自分のうしろに身を隠して、いっしょについてきてほしいということ。

ウ このさき自分が命を失うことがあったら、自分の後を追って死んでほしいということ。

エ 自分がある国に落ち着いたら、そのあとで自分のもとにやってきてほしいということ。

問 2

②・③ に入れるのに最も適切な言葉を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。た

だし、同じ記号を二度使用しないこと。

- ア なぜなら                      イ けれども                      ウ つまり                      エ むしろ

問 3

④ には次のア～エの四つの文が入ります。正しい順序で並べ替え、記号で答えなさい。

ア 弁護士さんの支援も受けながら努力を続けた結果、1997年、タンスエさん夫婦はようやく難民認定を受けることができました。

イ その大量の書類を集めると、今度はそれをミャンマー語から日本語に訳したり、何時間もくり返し面談を受けたり、気が遠くなるような作業の連続でした。

ウ 日本にやってきてから、すでに8年近くの年月がたっていました。

エ タンスエさんは、ミャンマーで暮らしていたころの記録や、デモに協力した人びとが命をねらわれていたことがわかる新聞記事などを集めました。

問 4

——線部⑤「ミャンマーでは2010年に、20年ぶりの選挙が行われ、人びとが自ら選んだ政府が政治を行えるようになりまし

た」とありますが、この状況も2021年2月に終わってしまいました。これについて、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) この状況が終わってしまった理由として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。
- ア 少数民族ロヒンギャの虐殺問題                      イ 国内経済の低迷による貧困
- ウ 軍による非合法的な政権奪取                      エ 中国の経済的影響力の拡大

(2) (1)の答えで選んだ理由は、下の「SDGs」の十七のゴールの中のどれに最も関係している問題ですか。最も適切なものの番号を答えなさい。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典：国際連合広報センター HP より作成

問5 — 線部⑥「遠くを見つめ」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

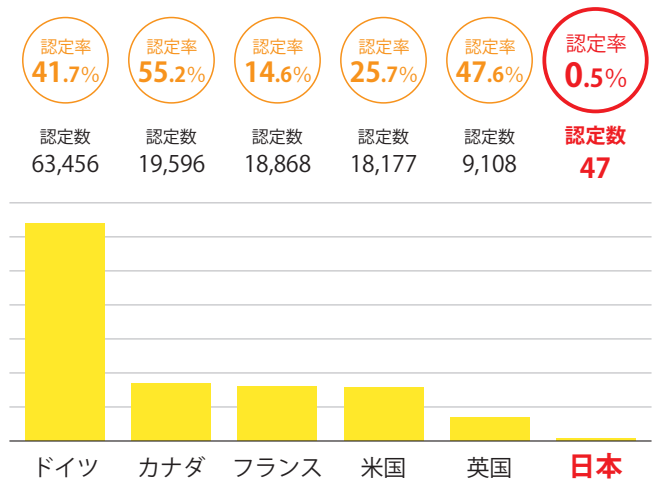
- ア それほど親しくない人のことを考え
- イ 海外の国々に思いをはせ
- ウ 他人には見えないものが目に入り
- エ 過去のことの思いをむけ

問6 — 線部⑦「子どもたちが望んでいることではないかもしれませんが、子どもたちが望んでいることとはどのようなことだと考えられますか。」「とということ」につながるように、十五字以内で答えなさい。

問7 — 線部⑧「2018年、『難民として認めてほしい』と申請した人の数は10493人、同じ年に難民として認められた人はわずか42人です」とありますが、あなたは日本の難民受け入れに関して、次の三つの考えの中で、どの考えをとりますか。

- ① ③の番号を選んだ上で、その理由を百字以内で説明しなさい（必要があれば次のページの資料も参考にしてください）。
- ② もっと多くの難民を受け入れるべきだ。
- ③ 現状程度の数の受け入れでよい。
- ④ 難民の受け入れをもっと減らすべきだ。





【認定NPO法人 難民支援協会HPより引用】  
 2020年、日本での難民申請者は3936人、認定者は47人。前年2019年は難民申請者は10375人に対して認定者は44人でした。各国の置かれた状況は違うため単純比較はできませんが、世界でも類を見ない極めて少ない認定数であることは事実です。例えば、シリア難民の認定率（2017年）は、ドイツでは38%、アメリカでは82%、オーストラリアでは94%ですが、日本では、2011年から2017年の間で81人が申請したところ、認められた人は15人（19%）に留まっています。

問8 ミャンマーを舞台にした、第二次世界大戦中の日本兵をモデルとした文学作品として最も適切なものを、次のア～エの中から

一つ選び、その記号を答えなさい。

ア スーホの白い馬

イ 坂の上の雲

ウ ビルマの豎琴

エ やまなし

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

「ピーコ、ただいまあ」

靴をぬぎながらピーコに声をかける。

「ピチュピチュ、ヨカエリ」

① ピーコがめずらしくかんだ。しかも声に元気がない。

「うへー、暑いね、この部屋」

美月は急いで、家じゅうの窓を開けて換気をして回った。

ムツとする熱気はい出るように屋外へと逃げていく。温度計を確認すると、なんと三十二度。

「あー、ピーコ、暑かったんだね。ごめんね。今からこれじゃあ、夏が思いやられるなあ」

いくら熱帯の鳥とはいえ、ピーコだつてたまらないだろう。熱中症になったら大変だ。なんとか対策を考えないと。

それにしても四月でこの暑さなんて、やっぱり地球はおかしい。このあいだ、テレビで北極の氷が溶けだして、行き場をなくしてさまざまシロクマの映像が流れていた。見ているのがつらくなってチャンネルを変えてしまったけれど、いつまでも心に残った。

この世は美月の②手に負えないことだらけだ。「世界はあなたのご支援を待っています」うつろな大きな瞳でカメラを見つめる赤

ちゃんの映像も苦手だ。心にささる。ささるけど、なんにもできない。できない自分に無力感がつる。だから目をそらせる。ずっと美月はそうしてきた。

——だけど、ピーコはなんとかしてやらなきゃ。

窓を開けっ放しにしておけばいいのかもしれないけれど、最近、団地は物騒だ。空き巣が頻発していると、このあいだも回覧板が回っていた。部屋が二階だからといって、油断はできない。

エアコンをつけっ放しにしておけば安心だけど、去年そうしてすごい金額の電気料金を請求されたから、今年はきつと母親がしぶ

るにちがいない。

空気が入れかわつたのを確認してから、窓を閉めた。それからいつものようにピーコを部屋に放つてやる。ピーコはうれしそうに部屋から部屋へと飛び回った。

——よかった。元氣そうで。

ほっとした美月はかごの掃除にとりかかった。フンでよごれた新聞紙をとりかえ、食べ残しのエサからごみをとりのぞき、きれいな水を入れてやる。

いそがしくしているうちに、いつもだったら肩に止まったり、新聞紙をつついたり、じゃまばかりするピーコがやけに静かなことに気がついた。

——ピーコ？

③ 顔から血の気が引いた。ばたばたとせまい家の中を走り回った。

「ピーコ、ピーコ」

いつもだったら、よぶとどこからかすぐに飛んでくるピーコの羽音が、聞こえなかった。

台所の窓が開いていた。

——しまった！ 閉め忘れたんだ。

④ ひざががくがくして立っていられなくなった。美月はへなへなと台所のリノリウムの床に座りこんだ。冷たさはいのぼって、ふるりと全身がふるえた。そのあと、

「ふうしちやいられなご」

⑤ あわてて立ちあがった。さがしにいかなきゃ。

階段を三段飛ばして駆けおり、表の桜の木を見あげる。しげった葉のあいだから、明るさを増した三日月がのぞいていた。

「ピーコ」

⑥ 声をしばってよんでみる。

「ピチュピチュ」という鳴き声が聞こえるかと期待して耳をそば立てた。だが、ジーという耳鳴りみたいな音が聞こえただけだった。飛んでいるかと空を見あげても、鳥の影ひとつ見えない。長方形の団地の建物が、暮れかけた空を区切ってそびえていた。電気の灯っている家も灯っていない家もあって、まるでジグソーパズルみたいだった。

「ピーコォー」

声を大きくしてもう一度よんでみる。……返事はなかった。

——ああ、どうしよう。

心臓がどくどくと音を立ててはねる。混乱した頭は真っ白でなにも考えられない。だめ、しっかりしろ。美月は自分をはげまし、必死に打開策を考えた。

——そうだ。「桃太郎」だ。

「桃太郎」の話を語れば、ピーコがなにか反応するかもしれない。さっそく実行に移す。

「昔むかし、おばあさんが川に洗濯に行くと」

だれもない夜の道で大声で昔話を語るなんて頭のおかしい子に思われる。だけど、そんなこといつてる場合じゃない。

「ドンブラッコッコ」

と、そこまで語ったときだ。

「スッコッコ」

どこからかピーコのか細い声が続けた。

——え、どここ？

すばやくあたりを見回し、もう一度声をはりあげる。

「ドンブラッコッコ」

「……スッコッコ」

——あっちだ！

ふり向くと、柴田のじいちゃんの部屋の窓に、まるで影絵のようにピーコのシルエットが映っていた。

「ピーコ」

あわてて窓辺に駆け寄ると、ピーコは窓と柵とのあいだにはさまって、動けなくなっていた。どうやらツメが網戸あみどに引っかかってはずれなくなっただけらしい。

なんとかはずそうともがくたび、きゃしゃな足が折れそうになる。氷を入れられたみたいに美月の背中を冷たい汗が伝った。

「待って、ピーコ、じっとしてて」

はずしてやろうにも、柵さくと網戸の間はせまく、美月の手は入らない。せまいすきまで、もがけばもがくほど、ピーコのけがのリスクは高まる。鳥がこんなにも繊細な生きものなのが、うらめしかった。

そのとき、窓辺に人影が映った。

「あの、すみません」

とっさに美月は声をかけた。柴田のじいちゃんが窓を開けて中からツメをはずしてくれたら、ピーコは自由になれる。

「上の階の山辺です。鳥が、鳥が網戸に引っかかったの。お願い、ここを開けて」

ところが影は動かない。耳が遠くなったのかと思って、声をはりあげた。

「柴田のじいちゃん！ お願い、窓を開けて」

そのとき影が消えた。

「えー、なんでよー！」

と、<sup>⑦</sup>地団駄じだんだふんできると、少しして、さっきより大きな影が窓辺に映った。

——え？ じいちゃん、ひとりじゃないの？

「だれだ」

じいちゃんのしわがれ声でした。

「二階の山辺ですけど、インコが逃げて、網戸に引っかかってはずれなくなっただんです」

美月は必死に訴えた。

サッシの窓が細く開かれて、なつかしいじいちゃんの顔がのぞいた。

「ぶこや」

「ん」

つい甘え声になった。

半分ほど開いた窓から中がのぞけた。つけっ放しのテレビの前にポテトチップスの袋が転がっている。かすかな違和感があった。

柴田のじいちゃん、ポテチなんか食べるんだ。

「こいつか」

柴田のじいちゃんは、ごつごつした指に不似合いな器用さで網戸に引っかかっていたピーコのツメの先をはずしてくれた。美月はこちら側から両手でピーコをすくいとり、胸に抱きしめた。

「ありがとうございますー！」

そのとき、奥の部屋のふすまのかけから、だれかの顔がのぞいた気がした。

「もういいな」

もう一度のぞこうとする美月の視線をさえぎるように、柴田のじいちゃんはびしゃりと窓を閉めた。

「今日は大変だったんだよ」

帰るなり台所に立った母親にまわりついて、「ピーコ逃亡事件」の顛末を話す。

てんまつ

「かごの掃除してたら、そこの閉め忘れてた窓からピーコが逃げたんだよ」

「えー、それでどうしたの」

キャベツを片手に母親は大きく目を見開いた。

「あわててさがしに出たら、柴田のじいちゃんちの網戸に引っかかってた」

「よかったねえ。もしピーコがいなくなってたなら、美月、大泣きするところだったじゃん」

「そりゃそうだよ。だけど、おかしいんだよ。ピーコったら、最初見つからなくてこまって、もしかしたらって思って、桃太郎の話して、『ドンブラッコッコ』までいったら、『スッコッコ』って続けたんだよ。それで見つかった」

「すごい、ピーコ！ おばあちゃんが教えこんでくれてたおかげね」

話すあいだも母親の手は止まらない。キャベツをぎざみ、ひき肉とまぜ、調味料をふりこむ。やったー、今日はギョーザだ。皮に包むの手伝いながら、美月は最前から心に引っかかっていることを口にした。

「ねえ、柴田のじいちゃんて、だれかといっしょに住んでるの？」

「うん、おひとりよ」

「だよねえ」

じゃあ美月が見たあの人影はだれだったんだろう。まさか亡くなった奥さんの幽霊ゆうれいとか？ んなわけないよね。

「食事なんかどうされてるんだらうって気になるけど、『放つといてくれ』って、いわれるしねえ。おばあちゃんが亡くなって、すっかり人が変わったよねえ」

五十枚入りの皮を全部包み終えると、

「さあ、焼くよ」

と、母親は重いホットプレートテーブルをどんとのせた。

美月の家では、ギョーザの日はギョーザだけ。ほかのおかずはなし。鉄板にごま油をたっぷり引いて、ジュージュー焼きながら食

べるギョーザはおいしすぎて、いつもふたりで五十個をべろりと完食してしまう。

「あー、食った、食った」

だらしなく椅子にもたれて、おなかをさすっている。

「クッタ、クッタ」

とピーコが真似まねをした。

「もう、やめてよ。おはあちゃんと暮らしていたころとくらべて、ピーコの口が悪くなったと思ってたら、犯人はあんだったのね」  
流しに鉄板を運んでいた母親が、ふりかえってにらむ。

「今度ピーコが逃げたら、『食った、食った』って、いつてみようか？ 『クッタ、クッタ』って、かえってくるかも」という美月を、

「なにのんきなこと、いつてんの。このあいだもニュースで野生化したインコが増えてるっていつてたよ。ピーコだって、一度自由の味を知ったら、もう帰ってこないかもよ」と脅した。

それはこまる。ピーコは美月の大切な家族だ。ピーコのいない生活なんて考えられない。本格的な夏がやってくる前に、暑さ対策を考えてやらなきゃ。だけど、流しにかがみこんでごしごし鉄板を洗っている母親の疲れた背中を見ると、どうしてもクーラーのことは、いい出せなかった。

(やつかすみこ  
八束澄子『団地のコトリ』(ポプラ社)より)



問1 — 線部①「ピーコがめずらしくかんだ」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 美月が出かけていて寂しかったから。
- イ 熱帯の鳥には快適な室温だったから。
- ウ 部屋の温度が高くて弱っていたから。
- エ 熱中症になって元気がなかったから。

問2 — 線部②「手に負えない」とほぼ同じ意味を表す部分を、本文中から抜き出して答えなさい。

問3 — 線部③「顔から血の気が引いた」、⑦「地団駄ふんでいる」とありますが、この時の「美月」の気持ちに近い言葉を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

- ア 怒り
- イ 戸惑い
- ウ 焦り
- エ ためらい

問4 — 線部④「ひざががくがくして立っていられなくなった」とありますが、なぜですか。三十五字以上四十五字以内でわかりやすく答えなさい。

問5 — 線部⑤「あわてて立ちあがった」とありますが、これ以外で、ピーコの気配が感じられなくなった時の美月の焦る気持ちが行動として表れている一文を、本文中から二つ抜き出し、それぞれ最初の五字を答えなさい。

問6 — 線部⑥「声をしぼってよんでみる」とありますが、なぜだと考えられますか。その説明として最も適切なものを、次の

ア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 大きな声でよんでしまうと、ピーコがその声を怖がって逃げたかと思っただから。

イ 日が暮れかけていたので、団地の住民の迷惑にならないようにしようと思っただから。

ウ ピーコのことを心配しすぎて疲れ果て、もはや大きな声を出す気力がなかったから。

エ 自分の声に反応して聞こえてくるであろうピーコの声を聞き逃したくなかったから。

問7 次の各文のうち、本文の表現に関する説明としてふさわしいものには○、ふさわしくないものには×で、答えなさい。

ア 比喩表現や会話文を多く用いることで、具体的なイメージを読者にもたらし、臨場感を高めている。

イ 倒置法を多用し、違和感を感じさせることで、あたかも翻訳小説のような印象を読者に与えている。

ウ 同じような内容の表現を繰り返すことで、そのときの登場人物の心情を読者に深く印象づけている。

エ 会話文だけに話し言葉を使うことで、登場人物の描写に対して、現実感を高める効果が表れている。

問8 美月の人物像・人柄について、良い面に着目して、本文中から根拠を示しながら、八十字以内で具体的に説明しなさい。

三

次の各問いに答えなさい。

問1 次の①～④の文の——線部のカタカナを適切な漢字に直しなさい。

- ① 彼のセイジツな人柄がよく分かる話だ。
- ② 素晴らしい気遣いに、カンシャの言葉が相次いだ。
- ③ この地方にデンシヨウされている話。
- ④ この屋敷には不思議なゲンシヨウが起こる。

問2 例にならって、次の①～③の文から漢字の間違いを探し、正しい漢字に直しなさい。

例 私はとても健康です。 【解答】 建 ↓ 健

- ① 大臣の問題発言により議会の混乱は必志だ。
- ② 物語がどのように転開していくのか、とても興味深い。
- ③ 自率神経が働いて、体温を調節している。

以下余白

